

みんなが生きやすい世界のために

瀬田中学校 2 年

河嶋琴乃

私は、中学一年生の時に学校での性教育の一環で、LGBT についての授業を受けました。授業では、LGBT と呼ばれる性的少数者とは何かということと、これからどのように差別をなくしていけばよいか、という話を聞きました。その授業を受けて、私が感じたことや考えたことを、今回この場で発表します。

LGBT とは、性自認と性的指向を合わせた性の多様性を指す言葉です。最近では、自分の性別や性的指向を迷っている人を指す「Q」や、他人に恋愛感情を抱かない「A」と呼ばれる人も加えて、LGBTQA や LGBTQ+と呼ぶこともあるそうです。自分の身体の性に対して違和感を持つ人や、異性でない人を好きになる人がいる、ということは、小学校の授業やテレビなどで聞いたことがありました。しかし、授業で専門家の先生から話を聞いたことをきっかけに、私の中に様々な思いが浮かんできました。

例えば、私たちにはそれぞれ好きなものがあります。性格も違います。「読書が好き」「スポーツが好き」など、それは様々です。そのことに、わざわざ名前をつけたりすることはしないのに、どうして、LGBTQA と名前をつけているのだろう、と疑問に思ったのです。授業では一般的に性的多数者とされる、異性を好きになる人たちは「ヘテロセクシャル」、略して「H」という名前が付いているということを学びました。私はこのことに違和感を覚えました。みなさんの中でこの名前を聞いたことがある人がどれだけいるでしょうか。きっと、多くはないのではないかと思います。実際に、私もこの授業を受けるまで、テレビなどで全く聞いたことのない言葉でした。それはいったいなぜでしょうか。その理由は、無意識のうちにそれが「普通のことだから」「当たり前のことだから」と私たちが思ってしまうからなのではないかと思います。こういった、無意識の思い込みや決めつけが、私たちの心の中には潜んでいるのかもしれない。今回の授業は私にそのことを気づかせるきっかけになりました。

そこで、性的多数者、少数者にとらわれず、「すべての人が生きやすい世界」を作っていくために、私たちひとりひとりにできること、大切だと思うポイントを二つ考えました。

一つ目は「正しく知る」ということです。性の多様性を私たちが正しく知ることで認めていけるはずです。また、周りの受け皿があれば、少数者も多数者も、みんなが不安を感じずに生きていけるのではないかと思います。また、私自身が自分の性について違和感を持ったり、友達に相談されたりしたときに、正しい知識は、自分の思いをしっかり整理しながらその友達に伝えることを助けると思います。いつか、自分の大切な友達の相談相手になったら、不安なことを聞いて安心させたりできるよう、正しい知識をつけたいです。そして、二つめは「自分ごととしてとらえる」ということです。これは、LGBTQA に関してだけでなく、すべての人権の問題に対しても言えることです。「LGBTQA」の人が生きやすいように、という考え方から性的少数者や多数者も含めてみんなが過ごしやすい世界を作っていく、という視点に立つことが大切です。それぞれ立ち位置は違うけれど、お互いにその違いを理解し、尊重し合えるような関係になればいいと思います。みんなが生きやすい世界を作るために、私にできることから一歩ずつはじめてみようと思います。

